



卓 話



「祖父 菊池 寛」

菊池寛記念館名誉館長 菊池 夏樹氏

東京四谷ロータリークラブの皆様、こんな私をお招き下さいまして深く感謝をいたします。30分というほんの僅かな時間ですが、宜しく願いいたします。9月1日お昼をご一緒できるというお話でした。決して料理に魅かれたわけではありません。四谷は、私が十代のころ最初のガールフレンドが住んでいた町で、四谷の町に魅かれたわけです。



さて、文藝春秋を退職してから、多々講演のお話を頂きます。お客様も1500名から20~30名と千差万別です。先日は、青山学院大学の18歳の学生諸氏の前で私なんぞが授業を致しました。

私は、どんな時でも講演の話を決めて行きません。気が弱いからです。恥ずかしいからです。小鳥のような小さな心臓の持ち主だからです。いつも、お客様の顔色を見つつ話を変えてしまいます。ずるいのですね。どんな話が飛び出すか自分でもわかりません。

ですから、ある時は祖父 菊池寛の生涯を、ある時は自分の編集者時代の作家たちとの逸話を、そして、またある時は、直木賞や芥川賞の秘話などの話をして帰ります。しかし、どんな時でも、帰り道は後悔でいっぱいになってしまいます。皆様も、道などで、昔の失敗を思い出して立ち竦んだ経験をお持ちだと思います。私は、その連続なのです。じゃあ、どうして参加するのかと問われれば、小鳥の心臓が「NO」と言わせてくれないのです。

(9月1日 卓話)

「東京スカイツリーの建設 (その1) 概要」

㈱大林組建築本部プロポーザル部副本部長
川瀬 俊二氏

世界一の新タワー「東京スカイツリー」は私ども大林組がつくっております。

最上部のゲイン塔は、地上部で鉄骨を組み立て、高さ634mまでタワー内部をワイヤーで引き上げるダイナミックな「リフトアップ工法」で設置します。ゲイン塔は心柱をつくる前のタワー中央部の空洞内で、最頂部から組立て始め、引き上げながら順次下に鉄骨を継足して組上げます。完成したゲイン塔は下部の階段室も含め200mを越えます。これを引き上げ、タワー塔体から突き出し、最終的な高さに設置します。この工法により500mを超える未知の高さでの作業を省略でき、安全と品質が確保されます。また、第1展望台から上のタワー本体の組立と平行して、地上部でゲイン塔の組立が行える為、大幅な後期の短縮が可能になります。



ゲイン塔を引き上げた後の空洞部分に、心柱をつくります。スリップフォームは、型枠を「滑り上げ」ながら連続してコンクリートを打設する工法です。大林組の保有技術であるこの工法により、タワー中心部の狭い空間で短期間にコンクリートの円筒を構築することができる為、心柱をつくる工事を後回しにして空洞部分をゲイン塔のリフトアップ工法の工事に使うことが可能となります。

(9月8日 卓話)

「東京スカイツリーの建設 (その2) 建設技術」

㈱大林組建築本部プロポーザル部副本部長
川瀬 俊二氏

(10月6日 卓話)